

大学婦人協会東京支部

2002. 3  
第 31 号



### 活動の原点に戻って

I F U W 会長 青木 怜子

昨年八月、オタワでの総会が終り I F U W の新しい会期がスタートした。本来なら、新たな希望と抱負を漲らせてのスタートであった。だが間もなく、九月十一日の事件が起こった。闇の中で希望が萎え、行く手を阻む八方塞がりの壁を崩す気力もそがれて消沈する人々の群の中に、私たちもいた。

I F U W 会員として、何ができるのか。おそらく多くの会員が世界各地でこの問いを繰り返し、自らに問うたに違いない。女性の高等教育促進、女性の地位向上、男女共生が可能な世界平和の礎を築くことに、私たちの目標があった。しかし、その成果は実るのか。非常時に即応できる力となり得るのか。教育の成果に即効性はないと知りながら、この時ほど、もどかしい思いに囚われたことはなかった。

だが、繰り返し映像に映し出されたタリバン政権下でのアフガン女性への虐待と不当な差別を見るまでもなく、貧困と因習と身勝手な暴力的思想が、弱者の立場を侵し、人権を損ねている。それは実は、アフガン

だけの問題ではなく、世界各地で、似たような危機をはらんで遍在する。

人身売買、売買春、臓器提供に絡む生命の売り買い、家庭内暴力、児童虐待といったおぞましい犯罪が横行する中で、私たちは何をすればいいのか。少なくとも手を拱いていけない、と捉えるならば、結局は教育の問題に行き着いてしまう。

教育の問題は、教育の欠如という非識字社会だけのことを言うに当たらない。偏って歪んだ教育、因習に囚われて公正を見失った教育、利己主義や他者への無関心を助長する教育、差別を生む教育、異なった価値観を許容できない教育。自由を閉ざす教育。何と多くの隠れ蓑に身をやつし罷り通る教育の多いことか。その弊害を正さずして、差別も、児童虐待も、家庭内暴力も根絶させることはできない。

かつて歴史が歪められ、情報が偽られ、偏狭な教育を受けてきたわれわれ日本人自身が、そのことを一番よく知っている。その認識を J A U W で、I F U W で活かすことが、明日の世界に貢献できることではないかと、今ほど痛感させられる日々はない。

### 事業報告・予定

- 7・25 羽田澄子監督映画ビデオ鑑賞会(安心して老いるために)
- 8・10 I F U W オタワ総会に出席
- 9・26 講演「ルネサンスの華・エリザベス女王の肖像」  
講師 石井美樹子氏
- 10・13 J A U W 全国セミナーに参加
- 10・14 講演「いのちを考える」
- 11・12 講師 木村利人氏
- 12・12 見学 旧古河庭園
- 12・12 講演「電気を伝えるプラスチックの発見とノーベル賞」  
科学研究奨励委員会と共催)
- 12・17 講師 島美喜子氏  
クリスマスコンサート  
演奏者 太田茂氏 太田嘉子氏 石橋衣里氏
- 1・12 新春のつどい(本部主催)  
国内奨学金贈呈式(国内奨学、社会福祉委員会と共催)
- 3・1 「ともしび」第31号発行
- 4・13 第45回通常総会(神戸)に出席
- 4・20 東京支部総会  
記念講演 山田太一氏  
講演 題未定
- 5・20 講師 水島広子氏

○以後の事業等は、決まり次第お知らせします。

## 二〇〇一年度全国セミナー報告

(01・10・13〜14)

副支部長 山崎 邦子

木の葉の色づき始めた武蔵嵐山の国立女性教育会館において、今年も国庫補助事業全国セミナーが開催された。参加者は会員一四三名、一般二名の計一四五名であった。

テーマは「二一世紀、男女共同参画社会の確立をめざすエンパワーメントのストラテジー」。過去三年間の全国セミナーにおける決議事項の進捗状況を点検することが眼目とされた。

一日目は全国七支部の研究発表が午前中に、続いて本部の三委員会(教育・女性の地位・社会福祉)の研究発表が午後から行われた。いずれも実態調査を踏まえた渾身の力作だったが、今年度のテーマに沿ったもの、より実践的なものが注目された。

休憩後、山本会長の司会で「どこまで進んだ男女共同参画社会」と題して、男女四人のパネリストを迎えシンポジウムが開かれた。それぞれ学校教育、地域行政、男女のライフスタイルの研究、国や自治体の法制化に携わった立場から、体験を踏まえて問題点を指摘され、大変興味深

いものであった。

夕刻からの懇親会は今期IFUWの会長に就任された青木怜子氏が抱負を述べられ、また同じく女性の地位委員会委員に選出された房野桂氏のご挨拶を経て、一同お二人に心から激励の拍手を送った。

二日目は朝から参加者全員が①学校教育②家庭教育③女性と職業④高齢者問題のいずれかの分科会に分かれて討議に加わった。

午後には平野和子国際委員長のビデオを交えてのIFUWオタワ総会の報告があり参加しなかった会員にも総会の様子が伝えられた。

その後、各分科会の代表による分科会報告が行われ、全体討議に臨んだ。フロアからも活発な意見が出て、二日間のセミナーのしめくくりとなった。



東京支部

委員は前日から会場の設置に当たり、当日はマイクを持って会場を走り、会場係二年目の任を果たした。

## 全国セミナーに参加して

緑に囲まれた武蔵丘陵の素晴らしい環境の中で開かれる全国セミナーに初めて参加することになり、その内容や参加者との出会いに期待と関心でワクワクする思いで国立女性教育会館を訪れました。

今回は、男女共同参画社会の確立を目指すエンパワーメントの戦略をテーマにした三年間の活動の総決算ということで、教育、女性と職業、福祉のそれぞれの分野における成果と今後の課題についてシンポジウムや分科会が行われました。

久しぶりに学生に戻ったような知的な刺激を受け、生物学的性差とジェンダー、個人差、教育と文化、文化の歴史的(時間的)、地理的(空間的)限界性と普遍性等々、男女参画社会を考えるとき避けて通れない問題を改めて見つめる機会になりました。同時に自分の内なる性差意識についても考えさせられました。

ただ、一般参加者が少ないのが残念で、ここでの議論と現実との差をどこまで縮め、現実をよりよくしていくかが今後の課題だと思いました。

(遠藤 理枝)

講演(01・6・27)

「テレビ記者の見たアメリカ大統領」  
— 視える政治と視えない政治 —

講師 末延 吉正氏



梅雨の晴れ間の一日、テレビ朝日報道局コメンテーターの末延氏をお迎えしました。入社以来二十三年間、アメリカ・アジアの政治や外交等が専門で「ニュースステーション」「サンデープロジェクト」等の制作に携わってこられ、まさにTV報道の最前線でご活躍の方です。

フロリダ州の開票で異例の混乱を見せたブッシュ氏対ゴア氏の大統領予備選挙。私たちの関心も随分高くなりました。アメリカ大統領は国民の直接選挙で選ばれる元首。世界で一番有名であり、最強の軍事力、経済力、情報力を持つアメリカの象徴です。TV画面で見られる予備選挙の派手なパフォーマンスやガラス張りの支持者と選挙資金はいわゆる「視える政治」の部分と言えるそうです。アメリカにも「視えない政治」の

部分があり、たとえばワシントンのインナーサークルに存在する「クラブ」や「ホームパーティー」がまさにそれ。ワシントンポスト社主のキャサリン・グラハム女史著「我が人生」はその辺の事が良く解るのでお薦めの本だそう。民主党のクリントン前大統領は都市のインテリ層に支持され、人権外交とIT金融政策を進めました。彼はまた、弁護士のパロン・ジョーダン氏と元駐仏大使のハリマン女史の二人に支えられていたのだとか。一方、共和党のブッシュ大統領は保守的で「力の論理」「カウボーイ的なアメリカンドリーム」の実現を目指しているのです。

小泉首相の人氣は、その発言等を「視える、わかりやすい」と国民が感じるからというお話もありました。また、湾岸戦争の従軍記者として砲弾飛び交う中で命がけの取材、国連監視下のカンボジア選挙の取材等の二体験談も興味深く伺いました。

最後に「国民の知る権利の代表としてのメディアが権力を正しくチェックするためには、TV視聴者からの投書が大切です。どしどしお寄せください！」と話されました。

(三浦 久子)

講座(01・7・25)

### 羽田澄子監督映画ビデオ鑑賞会 『安心して老いるために』

津田の同窓会館の一室を埋め尽くした人々は、羽田澄子氏の映画『安心して老いるために』の画面に吸いつけられたように見入り、見終わつた後もしばらくはシーンとして声になかった。それぞれの胸の中にはなんともいいようなない思いで一杯だったと思う。

舞台は岐阜県池田町。「オカアサン、オカアサン」と嫁の跡をついて回るおばあさん。「マメな時はいいが倒れたらどうしよう」と不安がる九十歳の芸妓さん。寝たきりの妻に三度の食事を作って食べさせ、オムツを替え、その間を縫って遊びに行くという老いた夫。高齢者介護の実態ばかりではないだろう。

しかし、ここには町の福祉に力を入れようと思立っている町長さんやいた。優れた介護をしている特別養護老人ホームがあった。町では老人ケアを進める会を設立し、実際に車椅子で歩いて町中の不都合なところを点検し議論しケア・システムを進めている。北欧の国々における老

人福祉の現状も実際に行つて調べた。その中には四人の中学生も含まれ、デンマークでのお年寄りとの交流はほほえましいものであった。帰国後の報告会での彼らの報告は見事であった。小・中学生を含めてのこれらの取り組みは、どんな見えない成果を子供たちの心の中にもたらしただろうか。

誰もが行き着く高齢の社会。この池田町のような町があるというだけで最初のやりきれなさを吹き飛ばし、明るさをみる思いであった。

講演(01・9・26)

(鈴木 光子)

### 「ルネサンスの華 エリザベス女王の肖像」

講師 石井美樹子氏



イギリス文化研究者として活躍の石井美樹子氏を迎えての講演会が、四谷

地域センターで催されました。残暑にも拘らず会場はほぼ満員。石井氏の流暢な語り口で始まり、貴重なスライドや氏が長年かけて集められた

書簡の写しのレジュメを交えての説明は大変興味深く、エリザベス一世がなぜあのように長く女王の座に君臨できたかを垣間見る思いでした。

十三才の時の肖像画から受ける愛らしく心もとなない印象のエリザベスが、父ヘンリー八世の庶子でありながらも十年の間に女王になり、自らの考えを断固実行する女性に変貌するに至ったのは、持つて生まれた知性と頭脳もさることながら、ひとえに優れた教育の賜物であったことは氏が最も強調された所でした。

当時の肖像画の、衣装や調度品の観点からの分析もユニークで楽しいものでした。例えば、戴冠式の服は姉メアリー女王が五年前に着た物を手直したもので、それを身に着けることにより姉メアリーに打ち勝つたことと、質実な女王である印象を民衆に与える一つの手段であったこと。

女性君主が正当化されていない時代に、エリザベス女王が自分に相応しい君主像を模索しつづけ、最後には絶対君主としてそのイメージを国民に植えつけ、女であることの制約を乗り越える過程には、周到な配慮と犠牲も多くあったのです。

(河井 尚子)

講演 (01・10・24)

## 「いのちを考える」

講師 木村 利人氏



最近の出来事の中には考えられな  
いほど人の命を軽んじていると思わ  
されることがある。そんな折、生命  
倫理の研究者であり、「インフォーム  
ドコンセント」という考えを日本に  
紹介した木村氏に、お話を伺った。

受精卵診断や凍結受精卵などの生  
殖医療、安楽死・尊厳死などの問題  
を含む末期医療、またいのちの質そ  
のものに関わる移植医療や、ヒトゲ  
ノムの解析による遺伝情報に基づい  
た治療など。いのちの始まりから終  
わりに至るまで操作が可能な時代に  
なった。

この、いのちのコントロールにど  
う関わっていくかを考えることが、  
「生命倫理」と訳されているバイオ  
エシックスである。これは、先端医  
科学技術に対する倫理問題だけでは

なく、もつと広くいのちを守り、育  
て、充実させていくためにはどうし  
たらいいのかを考えていこうとい  
うものである。その原則は生に関わる  
すべてを自分で決めることであり、  
インフォームドコンセント（情報を  
充分に受けた上での同意。本当のこ  
とが平易な言葉で伝えられなければ  
ならない）の考え方が重要となる。

「幸せなら手をたたこう、幸せなら  
態度で示そうよ」これは四十年以上  
前、木村氏が作詞したもの。この歌  
のように、お互いに手をとり、助け  
合って命を支えあい、生き方を模索  
していくこと、それがバイオエシッ  
クスであると話を結ばれた。

手をとり、一緒に生き方について  
考えようよ。そうすれば必ず何かが  
生まれてくるよ。インフォームドコ  
ンセントと言う言葉が二十年を経た  
今、ようやく根付きつつあるように。  
先生の言葉にはそんなメッセージジ  
が込められているように思われた。

(福士仁三代)



あ

講演 (01・12・12)

「電気を導くプラスチックの  
発見とノーベル賞」

講師 島 美喜子氏



科学教育に関する委員会活動の一  
環として、科学研究奨励委員会は東  
京支部と共催で、委員長・島美喜子  
氏の講演会を開催した。この講演会  
は、専門外の方々にも自然科学に関  
心を持っていただきたいと願って、  
計画されたものである。

筑波大学名誉教授の白川英樹先生  
が、米国の二人の教授とともに「導  
電性高分子の発見と開発」という業  
績で、二〇〇〇年度ノーベル化学賞  
を受賞された。そこで今回の講演会  
では、同じ高分子化学を専門とされ  
る島委員長が、このノーベル化学賞  
の内容を分りやすく解説された。

講演は初めに、ノーベル賞設立の  
経緯や、これまでに受賞した日本人、  
高分子関係で受賞した人達および女  
性の受賞者に言及。続いて本題の受  
賞者らの業績については、「ポリアセ

チレンフィルムの発見」と「導電性  
高分子の誕生」の二段階に分けてそ  
の創造性の軌跡が紹介された。

まず、研究生の偶然的失敗実験が  
端緒となつて、白川先生がフィルム  
状ポリアセチレンを発見されたこと  
に触れ、世にいう「セレンディビテ  
ィ」の大切さを強調された。

白川先生はその後、異分野の今回  
の共同受賞者と遭遇され、ポリアセ  
チレンフィルムが化学的ドーピング  
（不純物の添加）によつて、金属並  
みの高い導電性を持つことを発見、  
これが高分子は電気を通さないとい  
う従来の常識を破り、多方面への応  
用が期待される導電性高分子時代の  
幕明けになったことを話された。ま

たポリアセチレンに電気が流れるし  
くみについては、分子模型とO・H・  
Pを使つて共役二重結合、ホールの  
移動などを分りやすく説明された。

約六十人の参会者で埋まった会場  
は随所に挟まれたエピソードによつ  
て終始和やかな、楽しい雰囲気にな  
れていた。講演を拝聴して、改めて  
基礎研究の重要性を痛感させられ  
た。日本人が二年連続化学賞に輝い  
たことに感動して、自然科学の研究  
に携わる若者が一人でも多くなるこ  
とを期待したい。(山中 照子)

## (01・12・17) クリスマスコンサート

暮の気配も濃い12月17日、東京支部のクリスマスコンサートが学芸会館で催された。

太田茂氏のファゴット、夫人の嘉子氏のフルートに、石橋衣里氏のピアノ伴奏。

昼食も用意されたクリスマスイベントであった。非会員も含めて約80名が参加。

ファゴットはあまり知られていないため、太田氏のご説明があった。

パッパノグノーのアヴェエマリア、シューベルトのセレナーデ、吉松隆氏のオリジナル三つの白い風景、等々と最後の曲はビゼーのカルメン幻想曲。私たちの聞きなれた曲のアレンジで、タキシードのドン・ホセとスパンコールに飾られたグリーン



のドレスのカルメンが奏でるデュエット。クライマックスでのホセとカルメンは思いのたけを奏で合い、誠にお息が合っ、これぞ夫婦の合

作。割れんばかりの拍手が鳴り止まなかつた。

優雅な楽しいひと時を過ごすことができ、演奏者とこれを企画した東京支部の委員の方々に心から感謝したい。  
(加藤 恭子)

## 新春のつどい 国内奨学金贈呈式

アルカディア市ヶ谷・私学会館における「新春のつどい」は、山本会長青木IFUW会長のご挨拶に始まり国内奨学金贈呈式が行われた。

厳しい選考を経て選ばれた奨学生は、一般奨学生(院生九名、学部生五名)、安井医学奨学生(一名)、ホームズ奨学生(一名)、社会福祉奨学生(四名)、計二十名。

奨学生たちは、目的、夢、希望を語り、会場は感動にあふれ、青山恵子さんの磨きあげられたメゾソプラノで、この集いはさらに盛り上がった。東京支部も奨学金の一部として十万円を寄付。日頃の行事への参加、バザーへの協力など、小さな行為が実を結ぶ姿を実感できる一日でもあった。

## サークルから

(講座名、日時、会場、講師、連絡先の順に記します。入会のお問い合わせは、連絡先宛お願いします。)

○東京漫歩くらぶ(休会中)

○英語講座

・第一第三金曜日 十時～十二時

・大久保地域センター

・松本節也元法政大学教授

・峯川正子

(☎〇三二二三八八四一八三〇七)

○源氏物語を読む会(I)

・第三第四水曜日

十時半～十二時半

・JAUW事務所会議室

・坂上栄美子講師

・平田宏子

(☎〇四七一四三二一五七三)

○ご寄付いただきました。

熊切富子氏 一万円

源氏物語を読む会I 五万円

源氏物語を読む会II 五万円

フラワーデザイン 二万八千円

楽しい俳句会 一万円

英語講座 五千円

○寄付しました。

国連難民高等弁務官事務所

「アフガン難民」支援募金 五万円

○楽しい俳句会

・第三水曜日 一時半～三時半

・JAUW事務所会議室

・柴崎富子講師

・海老原典子

(☎〇三二二三三五一五〇五六)

○源氏物語を読む会(II)

・第二第三第四火曜日

十時～十二時

・津田同窓会館

・坂上栄美子講師

・中山律子

(☎〇三二二三三三六四六二八)

○フラワーデザイン

・第三火曜日 一時半～三時半

・JAUW事務所会議室

・河井尚子講師

・山崎邦子

(☎〇四五八八一一九〇〇二)

○国内奨学金

十万円

○青木IFUW会長から

このたび、オタワの会議には、東京支部会員の方々が大勢参加され、積極的なコミットをされた上、私の会長選挙にあたって、厚いご支援を賜り有難うございました。

この場を借り、深く御礼申し上げます。

## 〃声のひろば〃

I F U W 総会

マリタイムツアーに参加して

8月10日開会の二〇〇一年I F U W オータワ総会では青木怜子I F U W 副会長が会長に選ばれ、他にも多くのJ A U W 会員の活躍が見られた。

会議の後、神奈川支部の松比良会員と私はC F U W 主催のマリタイムツアーに参加。参加7ヶ国40名で18日朝オタワ発、針葉樹林や唐黍、馬鈴薯畑の続く中をバスでひた走り、夕刻キングスランディング歴史村到着。到着の遅れで予定の見学は割愛、19世紀風雰囲気の中で夕食のみを楽しむ、セントジョーンズ川を船で下る。サンセットクルーズの筈が暗闇の中フレディレクトン着。下船して見上げた夜空の銀河の流れや牽牛、織女星のきらめきにしばし見とれる。

独立国カナダがなお英女王名代の総督、副総督を戴くことに英連邦の深い絆を感じながら副総督公邸訪問。この副総督は初の女性でC F U W 名誉会長の由、スピーチの後、地区の会員と共にお茶を頂き公邸内見学。二階に子供の絵を展示、一般公開しているとの話に女性の視点を感じた。

一九九七年完成の長い橋を渡りプリンスエドワード島へ。ここでも見事な調度類にかつての大英帝国の残映を留める副総督公邸訪問。赤毛のアンゆかりの地を見学後、赤毛のアンミュージカルを楽しみ、天然の良港ノヴァスコシアのハリファックスへ向かう。すてきなヨットクラブで地区会員と夕食を共にし歓談した。

町と海の深い繋がりを語るマリタイム博物館でタイタニック号の遭難を偲び、シタデル・星型要塞のスコットランド風レジメンタルの行進にまたもや英国の色濃い影を見る。次に21番埠頭ではここに上陸した移民や難民が汽車で各地に散り行き、カナダの現在がある歴史の一端を学んだ後、氷河が削り4億年前の大岩盤が露出したベギーズ・コープに遊ぶ。

更にロングフェローの有名な詩エヴァンジェリンにうたわれたアケイディアンと呼ばれるフランス系移民が原住民と友好裏に原野を開拓、英仏両国の抗争にも中立を望んでいたのに野心的な英総督の迫害で、男達は殺され女と子供達は他の土地に逃れた悲話をモンクトン大学史料館見学で知り、一行には英仏の会員も混じるだけに悲しい歴史に心が痛んだ。ケベックではスイス人会員に案内

され楽しい最後の夜を過ごし、各国よりの会員との素晴らしい出会いを思い出として、25日旅を終えた。

(齊藤 智恵)

図書紹介

「世界がもし百人の村だったら」

池田加代子再話

C・ダグラス・ラミス対訳

本書は、環境問題で知られるドネラ・メドウズの新聞コラムを集めた著書に採録されなかった一篇が、インターネットで世界を駆け巡る過程で内容を増し、最終的に力強いメッセージに姿を変えたものである。環境問題は、近代世界において自明のこととされ、国家や民族といった境界にとらわれず、グローバルな視点から取り組むべき広がりを持つ。別の面からいえば、一つの価値観で世界を一元化することは、本来多様な価値観に基づく差異を抱えた多元的な世界を平板な構造に変えることである。そこに大きな軋轢が生じることは、昨今の世界情勢からも明らかである。世界が一体となって健やかな環境を後代に残す努力をし、一つの価値観による独裁という危険を免れるには、どのような覚悟が必要なのだろうか。このことは避けて通る

ことのできない問題である。

63億という世界の人口がどれほどの多様性を具えているか、イメージすることは容易でない。本書は、地球を百人からなる小村落に置き換えれば、この「村」を構成する多様性がイメージしやすいと考えた。例えば、男女比率は48対52、年齢別構成比率は子供30、大人70(内老人7)、信仰する宗教の種別では、キリスト教33、イスラム教19、その他48、人種構成は有色人種70、白人種30……このような分類基準は、更に富の偏在(6人のアメリカ人が富の59パーセントを独占)、教育(文盲が14人)等々、多岐にわたり、興味は尽きない。

この村落にいる日本人は僅か2人。この2人は、果たしてその他の98名が具え持つ多様性を親身に理解できるだろうか。逆に、98名の「多数」は2名の「少数」を真に尊重するだろうか。この問題に対して人類が叡智を発揮できないければ、環境保護など画餅に過ぎないし、美化されがちなグローバル化も、結局は「正しさ」の押し付けに終わるだろう。隣人を理解せよという普通の主張が、実は今日的な鋭い問題提起であると、本書は教えてくれる。

(坂井 英子)

## ◇特別寄稿

## 目が離せない二十一世紀の教育改革

安・田中成子

大学婦人協会に入会したのは今から三五年以上前です。アメリカ留学の最中にウイスコンシン州支部の会合に招かれ、「日本文化」について講演を頼まれたことがきっかけでした。

さて本題に入りましょう。本題は新教育改革のことです。今回の教育改革は、後世の歴史家からは第一回が明治維新後の近代学校教育制度の設立、第二回が第二次世界大戦後の「民主教育」「六三制」の発足だったとすれば、第三回で、八十年代半ばの臨教審に端を発するものの仕上げです。「個性重視」「国際化と情報化」「学歴社会の是正」「生涯学習の体系化」「高等教育の多様化」などです。

これを受けた文部大臣諮問機関である中央教育審議会では、第十四期の「個性重視の教育」「個性尊重の教育」をめざした改革ということになるでしょう。あるいは教える側にたった知識の「詰め込み」教育から「学ぶものの立場に立つ」教育、「子どもたちの主体的な学習体験を重視する」教育、「自ら学ぶ意欲や主体的

に学ぶ力を育てる」教育へのシフトをめざした改革とも言えるでしょう。

本来、二〇〇二年四月から実施が決まっていた新しい学習指導要領にこめられた改革の基本は「学校週五日制の完全実施」と「生きる力」の育成を標榜した第十五期中教審答申「二十一世紀を展望したわが国の教育のあり方について」でありました。受験戦争ゆとり欠如という構図が教育改革の問題認識の中心を占めていたのでした。

これらの言ってみれば中教審メンバーの答申に基づく教育改革の流れに大きな変化を与えたのが、いじめ、不登校、校内暴力、学級崩壊などという異常な社会現象に気がついた社会一般の指摘でありました。すなわち、昨年発足した教育改革国民会議の提案です。この提案では、必ずしも教育専門家ではないコモンセンスとして十七の提案がまとめられています。

- 一 人間性豊かな日本人を育成する
- 二 一人ひとりの才能を伸ばし、創造性に富む日本人を育成する
- 三 新しい時代に新しい学校づくり
- 四 教育振興基本計画と教育基本法などがあります。

この提案をうけて「二十一世紀教育新生プラン」がまとめられ、緊急を要する法律改正が昨年六月に成立しました。改正は以下六点です。

社会現象の変革を合言葉に政治主導の法改正によって教育改革がスピードアップされるのです。

- 一 公立義務教育諸学校の学級編成 ↓わかる授業で基礎学力の向上
- 二 独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター法の改正 ↓地域での様々なことでの体験活動や読書活動の促進
- 三 国立学校設置法改正 ↓大学が学問や社会のニーズに適時、適切に対応
- 四 地方教育行政の組織及び運営の法改正 ↓教育委員会の活性化、指導の不適切な教員への適切な対応
- 五 学校教育法の改正 ↓学校における様々な体験活動の充実、いじめや授業妨害および問題行動への適切な対応、個性をのばす教育システム
- 六 社会教育法二部改正 ↓学校の内外を通じて様々な体験活動の促進、家庭教育支援の充実

まさに教育から目が離せないのです。  
(藤沢市教育委員長)

## 「きものを着る会」に参加して

今年度会員になりました。本当はもうだいぶ前に大学院を卒業しましたが、アルゼンチンで生まれ育ったので、日本の「きもの」を着たことはありませんでした。

日本に来てからお正月とか成人の日になると、一度は着てみたいと思っていました。一度は着てみたいと思つていましたが、洋服とちがって、非常に高価なもので、しかも一人では着られないとのことで、なかなかチャンスにめぐり合いませんでした。

このたび、「留学生と日本文化を学ぶ会」からお誘いがありましたので、迷いなく申し込みました。

十月三十一日はお天気にも恵まれました。集合場所は目白公園の日本的な建物（茶室）でした。受付を済ませて、奥へ行きました。会員の方がが大勢、畳の上で着付けの準備をしていました。一人の留学生に三人の協力会員がついて着付けしてくださいました。私はなるべく動かないように、外の美しい景色を眺めていました。留学生十七人の着付けが済み、庭園で記念撮影をしました。貴重な体験ができ、すばらしい思い出をいただきました。

(賀集イレーネ)

2002年東京支部総会のお知らせ

- ・四月二十日(土) 十三時～十六時
- ・アルカディア市ヶ谷私学会館
- ・記念講演 山田 太一氏

十四時三十分から

〈講師紹介〉

一九三四年浅草生まれ。早稲田大学卒業後、松竹演劇部に入社し、木下恵介のもとで助監督を務める。一九六五年独立、テレビドラマの脚本家となり、「崖辺のアルパム」「ふぞろいの林檎たち」など数々の話題作をてがける。作家としても、「飛ぶ夢をしばらく見ない」「異人たちとの夏」(山本周五郎賞)、また三児の父でもある氏が、四年をかけた心をこめて語り尽くした親子考「親ができるほんの少しばかりのこと」などの作品がある。舞台脚本の分野でも、意欲作を次々に発表している。

記念講演は、会員に限られません。一般の方も誘い合わせのうえ、多数ご参加ください。参加費は無料です。詳細は追ってご案内します。

2001年度東京支部新入会員

(2002年2月現在)

氏名	出身校	〒	住所
利重敦子	青学		
長谷川千恵子	津		
大本島杏子	東女		
實集イレーネ	実国大		
岸悠紀子	ブエノスアイレス		
柳田芳子	金		
辻井由里子	立実		
長岡茂通	明日		
牛山美智子	日		
水野美砂子	茶		
三浦洋子	実		
浜地亜里香	立		
岡部道子	日		

謹 弔

阿部わか子	法	院	2001年4月5日
西村圭子	日	女 院	2001年10月18日
宮澤照代	昭	女	2001年4月18日
北村孝	東	女	2001年11月23日

「声のひろば」へご投稿ください。  
○4月から実施される新指導要領。教育の現場から、子を持つ親の立場から、多くの声を新聞その他で目にするようになりました。会員の皆様の「声」をお寄せください。

○その他、どんなことでも。

・締切り日、5月15日

・JAUW事務所内

東京支部「ともしび」係まで

◇お願いと報告

- ・使用済みのカード類、切手などをお送りください。今年度も中野盲人自立センターにお届けしました。
- ・二〇〇一年度までの会費を未納の方は至急納入ください。(会計係)

◇訂正(第30号 3ページ)

Ⅲ参加費の項、8,000→3,000  
おわびして訂正いたします。

編集後記



○IFUW会長はじめ、要職にある方がたがお忙しいなか原稿をお寄せくださいました。心から感謝とお礼を申しあげます。

○まんまるい地球になれと初日の出  
(朝日川柳 02・1・10より)

平和を願うばかりです。

(Y)